

令和4年9月定例会 一般質問 河杉博之議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。（各議員からの「質問」（問）に該当する部分を黄色マーキングしております。）

「安全なまちづくりについて」

○河杉博之 改めまして、皆さんこんにちは。

一般質問も2日目、今回も12名ということで、私が12番目ということで、大変皆さんもお疲れだとは思いますが。また、2日にわたりまして私の前に11人の方が一般質問されたわけでございますけれども、本当に多種多様な質問をされながら、市政に対してどういうふうな形で前向きに市民の方々が安心して安全で、また幸せに暮らしていけるのかということ質問されたんじゃないかということで、改めて聞かせていただいたところでございます。

今回の一般質問でございますけれども、私のほうも大タイトルとして安全なまちづくりについてと、2番目がICTの活用・発展についてということでございますけれども、これも私の耳に多くの皆様、市民の方々から、また2番目については保護者の方々からお声をいただきまして、どちらかといえば喫緊に近い課題でもございますので、このタイミングで一般質問という形でさせていただきたいなというふうに思っております。

ただ、これにつきましては、長い目で見ますと、昨年度、第5次総合計画ということで出されてる中にでもうたわれてることでもございます。そういう中で、その手当てをしっかりといただきたいということでございます。一つ一つは、具体的なその目に見える部分、また生活の中で表れている部分ではございますけれども、大きくは総合計画、福岡市長の下でおつくりになられた総合計画の中で、短期、中期、長期とわたって香芝市の方向性、香芝市の在り方をしっかり書いていただいておりますので、その観点からもしっかりお答えいただければというふうに思います。

特に、物事を進めていくには、お金が必要でございます。予算に関しても、まず目先でしっかりやっていかなくちゃいけないこともございますけれども、総合計画の中でどのような形でそれに見合った予算のつけ方をしていくのかということが大事になってくると思います。そのことにおきましても、この9月においては昨年度の決算ということで、再来週には決算委員会も開かれる予定になっておりますけれども、しっかりそういうことで一つ一つを検証していただきながら、次のステップに進んでいただけたらなというふうに思います。

それでは、香芝市の、私もこれに入る前に人口推移を1回内容的にそこを抑えながら、乳幼

児、それから生産人口世帯、それから高齢者というふうに分けてお話をさせていただこうかと思っただんですが、先ほど申し上げたみたいに、11名の方でいろんな形で人口推移もされておられましたし、ついさっき眞鍋議員のほうも、しっかり転入人口も含めてされたんで、その辺については割愛をさせていただくんですけども、ただ第5次総合計画の中の推移で、これ最後の最後は2060年までやってますけれども、実際のところ2030年、2035年程度でもうなかなか今現実とは乖離し始めてるんじゃないかなというような、人口的な推移であると。それから、生産人口も、実際の話、15歳からという形になってますが、現状的に見ますと、15歳から22まで、実際18から22というのは微妙なところでございますけれども、まだ学生でございまして、生産人口と呼んでいいのかどうか。これは、行政の規定の項目でございまして、そこを香芝市で変えてみろという意味じゃないんですけれども、実際の話、人口推移と、また財政の問題、予算を組んでいくためにどういう形で香芝市が成り立っていくのかというふうにも見るためにも、その辺の数字の検証の仕方っていうのも、またしっかりしていただけたらなというふうに思います。

それで、2つの項目について、まずまとめて市長にお伺いしたいのは、今回バリアフリーを含めた歩いて生活のできる市をつくっていただきたい、これは長年、結構言っております。それから、ウォーキング人口が増えているようでございます。リタイア組が増えまして、結構いろんなところで歩いておられる方、ジョギングをされてる方を含めて多くなっております。それと、ICT活用で学校におきましてはGIGAスクール構想もそうでございますけれども、1人1台のタブレット端末を持っていただいておりますし、また総合計画の中ではICTを活用した市政運営ということも書かれております。

その中で、施策の26、27、そして施策の4ということで、今回についてはこの2つが施策の大きな中から引っ張り出してるところでございますけれども、まずざっくりと言って、福岡市長、この施策についてどういう考え方をお持ちであるのかというのをまず、ざっくりで結構でございますので、進め方、市長の思いというのをまず聞かせていただいて、それを口分けにさせていただいて細かく聞かせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます、壇上からの質問とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○市長 今運動について、ウォーキングについてお話がまずあったかなと思います。運動自体は、生活習慣病の予防だけでなく、本日にもよく出てるメンタルヘルス、こういったことにもいいんだろうなというふうに思いますし、ずっとコロナということが話題になっておりますが、体の免疫システムの強化、こういったことにも寄与するというふうには言われております。ご質問の施策26、27、こちらのほうが主にバリアフリーであったり、そういった道路整備のことが書かれておりまして、そして4のほうがICT、これは学校の部分にはなりますが、I

CTの話になっております。26、27、4共に、4に関しましては教育部と協力しながら、そして26、27に関しましてはここに書いてある目標の数値が達成できるように進めてまいりたいと思います。

○河杉博之 ありがとうございます。

今の市長、私も細かいことを聞いてないのでざくっとして、ただ市長の下で今回の第5次総合計画を立てられて発表されてるわけです、前期というところの区切りはありますけれども、令和3年から令和6年の年度の間でしっかり方向性を決めていこう、具体的につくっていけるものはつくっていこうという話だと思います。

そういう中で、どういう形で今市民の方々が思いを描いておられるのかということでございますけれども、まず都市創造部のほうにお伺いをさせていただきたいのは、大項目の中の1つ目にあります歩いて生活のできるまちづくりについてということでございますけれども、これ、ごめんなさい、ざくっとした言い方で、多種多様でございまして、まず1つは安全な歩道づくり、先ほど私の同僚の上田井議員のほうから道の話も、道路という意味での話はございましたが、もちろん市内の道路、市道を含め、道路全体でいうとそういうことなんですけれども、ただ今申し上げた施策で見ますと、道路の中で27のほうですかね、歩道の整備ということになると。

結局車道を歩いて生活をするっていうことは、基本的には考えられない。歩道といっても、ちゃんと凜とした歩道と白線だけを引かれてる歩道と、実際のところは町なかで住宅地であれば歩道という形ではなく、車道を歩いてるっていうこともあるんですけども、総じてまず市民の方々が歩いて生活ができる、これはもっと行くとコンパクトシティのほうになっていくんですけども、まずご自宅の玄関を出られて歩いていく、目的地まで行くことによって、安心で安全で歩ける道の確保というのをどのように計画しているかっていうことだと思うんです。特に、高齢化社会になり始めて、安全のほうで言うと、危機管理課のほうなんかで言うと、免許返納せえという話もあります。昨日かな、今日だったかな、自転車の交通安全の件もあります。ただ、インフラとなる道路、歩道がしっかりしてない限り、難しい状態になってるっていうことなんですけども、その辺についての計画、27と併せてどのように考えておられるのか、まず教えていただけますか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 本市の市道の歩道設置率が20.8%とかなり低い状況でございます。それ以外に平成27年度、道路交通センサスの国、県道の歩道設置率についても41.8%と50%を下回っている状況でございます。その中で、今重点的にやらせていただいているのがバリアフリー基本構想に基づいて、重点整備地区につきまして歩道の改良をさせていただいて、バリアフリー化することによって、歩くときの安心・安全な歩行空間を確

保して事業を進めているところでございます。

○河杉博之 ありがとうございます。

都市創造部の部長の答弁としては、それがまず無難なところだろうなという、一つは思いです。

パーセントも低い状態であるというのも、香芝市の、これは過去の歴史からいくと、割と乱雑に都市計画になってたというか、住宅地が開発されて、住宅地内の道路が狭いところ、広いところもございますし、現在でいくと、例えばすみれ野のように広く開発をされてるところでいくと、歩道の確保もしやすい、ただ 50 年代に開発されたようなところの場所でいくと、歩道どころか、車がまず通ること自体も厳しい道路の中で安全確保という状況の難しさというのはまず理解をした上で申し上げたいんですけれども、今くしくも 27 の道路整備の件と 26 の生活基盤・地域拠点ということで、中のバリアフリーの話を今部長はしていただいたんだと思うんです。できることできないことがあります。まずは、できるところのバリアフリー化をしていただくという、その計画はまた後ほど聞かせていただきますけれども、まずは原点に戻って、今あるところの安全確保の点検と整備っていうのはどのような形で今行われているのか、年間計画を取っていただいているのかっていうのをひとつお伺いしたいんですけど、お願いします。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 車道部分については、路面性状調査をさせていただいた中で点検等をさせていただいてる状況でございますが、歩道については点検というのは通常職員が出ていったときの目視程度の点検になっておりまして、そこについて皆さんが安全・安心に歩行できるかと言われれば、段差があったりというようなこともありますので、そこについてはなかなか点検できてない状況もございます。

○河杉博之 まず、全体で歩道の場合ですね。車道、歩道等のところであれ、何ミリでしたかね、あれ絶対、5ミリでしたっけ。

（「5センチ」との声あり）

○河杉博之 5センチでしたっけ。

（「段差は5センチです」との声あり）

○河杉博之 段差5センチじゃなくて、上がる場所のスロープのところフラットにはできないというのがありましたよね。そういうのも含めて段差ということの問題。また、歩道の中にあるマンホールで何ミリか立ってるだけで今高齢者の方が引っかかるという問題。それを事細かくということはなかなか難しい状態ではあると思うんですけども、これもアンテナの広げ方だと思うんですよ。どういう形でアンテナを広げて、市民の方々、これを言うと最終的にはいつも自治会っていう形になると思うんですけど、情報をいただくかということだと思んですが、前々からいろんな議員の方々道路の補修工事のところに見つけたら写真を送ってとい

う、こういうこともあると思うんですけど、そのシステムの開発は開発としてやっていただくことにしても、実際の話として市民の方々がぱっと歩道、今ごめんなさいね、車道の話じゃなくてあくまで歩道の話なんですけど、歩きにくい状態になってるときに、要はそこにお知らせをしたら取りあえず見に来ていただけるようなところっていうのをまずインフォメーションでつくっていただいて、車道とは別な意味でやっていただきたいなと思うんですね。

これ何が悪い、まず1つあれかといったら、せんだって公園道路管理課の課長のほうにもお願いしたんですけど、すみれ野のある高級パン屋さんの前の歩道が盛り上がって、草がすごく生えて、対処はしていただいたんですよ。でも、とても歩道としてもう遮断されてる状態になってた。これそのままでも、私はたまたまある方からご連絡をいただいてお話をさせていただいたんです。これを聞くと、どこにどう話していいか分からないという状況なんですよ。

その辺も一つどういう形でやっていけば安全確保ができるのか、歩いていけるという、大きい計画よりもまず現状のあるところをどういう形で維持管理ができるかっていうことを考えていただきたいと思うんですが、ただむやみやたらに広げて、いつも何かすぐそういうことを言うと、いや、ネットでどうのこうのとかって言うんですけど、気軽に電話で行けるようなところっていうのは、できるような形っていうのは考えていただくことは可能でしょうか、まずは。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 基本的に、車道、歩道を含めましてなんですけども、担当しているのが公園道路管理課でございます。そこへ電話していただければ職員がすぐに見に行かさせていただいて、現地確認した中で対応を今もしています。そういった中で、公園道路管理課のほうへお電話いただければ直ちに確認に行くように再度徹底させていただきま

す。

○河杉博之 この話をしつこくする気はないんですけども、今部長が申し上げたのは、それは役所の立場ですわ。要は、市民の大半の方がなかなかそういうところってないんですね。市役所に電話したらいいやぐらいまでは思い浮かぶんですよ。でも、どこに回してもらったらいいか分からなくて、どきどきして諦めるっていう方が多いのは事実です。半期に1回とか3か月に1回で結構ですんで、皆さんが安心して暮らせるための道路、歩道の危ない箇所、危険箇所を見つけたら気軽にお電話くださいという、この一文があるだけで全然皆さん違うので、もちろんホームページでもそうですし、まずは何であれ広報、お知らせ版なのか広報なのかは別にして、そういう気遣いをまずしていただくことによって、一つ一つが解消されていくという状況になると思いますので、そこをまずお願いしたいなと思うんですが、それについては積極的にやっていただけますか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 今いただいた形の方で検討させていただきたいと思えます。

○河杉博之 ありがとうございます。何はともあれ、まず一つはそれをお願いします。

現状的にはそれで結構なんですけれども、根本的な話になるんですが、現状があって整備をしていただくことについては、より一層の皆さんが使いやすい歩道にさせていただくということなんです。それを踏まえた上で、今先ほどの話に戻りますが、ウォーキング、ジョギングをしていく、また買物をしていくという意味で、安心して暮らせるという道路づくりというか、まちづくりをしていただきたい。これ2つはごっちゃで結構でございますけれども、ウォーキング人口とあれで、要は安心して町なかを歩けるような道路整備の計画っていうのをいろんな状況でつくっていただいた分が、いろんな計画があるから何とも言えないですが、地区計画があったり、今回の香芝総合計画があったりということで、道路関係の都市計画道路の計画から含めてにはなるんでしょうけれども、なると思うんですが、その辺についての毎年というか、半期に1回ぐらいの点検というか、どういう状況でどうなってるっていうことは、まずやっていただいているかどうかというのを伺いたいたいですけれども。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 各事業の計画につきましては、例えばバリアフリーの計画につきましては年度ごとにどれぐらい達成しているか等、市以外、国、県等も含めた中で確認はさせていただいて、そういった部分で点検して進捗管理に図っております。

○河杉博之 しっかりやっていただきたい。人間のやることでございますので、抜けがあると思うんですけど、しっかり定期的にまずやるということで、そこを掘り起こして思い出してやっていかなあかんという、これは言葉が正しいかどうかは分かりませんが、癖をつけていただいて、その目で見ていただくということを、個人に言うんじゃなくて、担当所管として動いていくという、サイクルをつくっていくということが大切になると思います。それがしいては市民サービスの向上につながるということですのでね。

それから、早めに手を打つことによって大きな費用がかからずに対応ができる、これは私が言うよりも部長のほうはその畑でおられて、よくご存じだと思いますので、そういう形でしっかり見ていただければなと思います。

それともう一つだけ申し上げますと、道路の歩道のところの安全確保はもちろんそうなんですけど、これは部長のところとほかのところも重なるかもしれないんですけど、あとは夜になって、特に今夏場はまだ結構な時間まで、もうそろそろ6時半ぐらいで暗くなるようになりましてけど、冬場になると早く暗くなると。これ安全確保の意味での街灯を含めた、今LED化が大分なってきた、寿命が延びてはきていますけれども、しっかりその辺の点検というのも、職員の方に夜な夜な回れとは全然言いませんので、しっかりその辺についても先ほどと一緒に、そういうところを見つけたらやってください。ただ、これ難しいのが防犯灯と市が管理する街灯との区別が難しいところではございますけれども、防犯灯の話が来ても、そこは自治会のほう

に返していただくような、ちょっと手間は増えるかもしれませんが、それで市民安全の向上ができるという意味合いで、また見ていただきたいなというふうに思います。

それで、今回の本題に入りたいと思うんですけれども、時間的な問題もありますので、一番なのは、まずはこういう形でジョギング、ウォーキングの方が増えて、今申し上げた既存の歩道、これから都市計画道路を含めてそれなりの幹線道路ができるところ、住宅街が広がるところっていうのは歩道確保はできやすいところだとは思いますが、なかなか今そういうところでもない。そういう形で今いろんな方々が、住宅街を散歩がてらお歩きになってる方、ジョギングされてる方も多くいらっしゃいますが、数少ない遊歩道的なところにお集まりになられて、朝夕とお歩きになったり、走られたりしてる方が多くなってます。それで、まず今部長が思い浮かぶ、そういうことができる場所っていうのは、香芝に何か所で、どういうところがあるかっていうのをまず教えていただけますか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 市内でウォーキングやジョギングができる場所につきましては、まずかつらぎの道、それと下田地内の旧葛城川を埋め立てた市道 10-270 号線が歩道としてはございます。また、歩道ではございませんが、五位堂鎌田地内の新池親水公園や今池親水公園が代表的なものとなっております。

○河杉博之 ありがとうございます。

言うても四、五か所。そこが、変な話ですけど混み合ってる状況になってるんですね。そこまで、変な話、近隣の方、近くにお住まいの方はそのまま行かれるんですけども、ちょっと離れた方は自転車ならまだしも、車で行ってわざわざ歩いておられるっていう方がいらっしゃるわけですよ。

これは、いろんないい点、悪い点があるんで、一概にこれが駄目とかという話を全然する気はないんですけども、そういう今のウォーキング人口、ジョギング人口が増えてる中、特に高齢化が進んで、健康のために、先ほど市長からもありましたように、健康志向からいったときに、体を動かすっていうことの大切さ、家の中に閉じ籠もるよりもしっかり外に出ていただくという、その状況をつくるためにも、市内道路の整備っていうのは絶対大切です。これをないがしろにしるって全然言いませんけれども、ある意味でしっかり市民の方々が安全で安心して歩ける、ジョギングができる場所の提供っていうのが必要になってくると思うんですけども、そういう計画っていうのは今お持ちですか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 歩道において、歩道を延ばしてそういったジョギング、ウォーキングできるような計画については今のところございません。ただし、スポーツ公園、今後造っていくんですけども、スポーツ公園の場所に園路を整備させていただく予定もしていますので、そういったところがあれば、安全・安心にジョギング、ウォーキングができ

るというふうに考えております。

○河杉博之 スポーツ公園、出たっという話になっちゃうんですけれども、昨日、今日の一般質問でもありましたように、プールの土地すらまだ買い切れてないの状況で、スポーツ公園が歩ける場所っていうのは、一体いつになったらできるんだと。今歩きたい人の孫ぐらいのときになったら歩けるのかっていうぐらいになってしまうと、話にならないわけですよ。

そうすると、市内の中の整備っていうのをちょっと目を向け直していただいて、スポーツ公園はスポーツ公園で、それはやっていただきたいと思えますし、いろんな紆余曲折があつて、今自然の中で散策できる場所っていうことで造り方を計画してるとも、耳にしてるだけで物は見てないですけれども、いろんな考え方がありますので、やっていただければいいと思うんですけれども、一番市民の方が道具も要らずに気軽に体を動かして、ひきこもりをなくすいい手段として、自然参加型で増えてる中を伸ばしていくっていう形を1度ちゃんと計画していただきたいなと思うんですね。

それで、先ほど言っていたように、五位堂の新池とか今池とか代表的なかつらぎの道というような形で言われてます。残念ながらその中で、今のウォーキングをしていただいているかつらぎの道を含め、新池を含め、下が非常に荒れてるといいますか、いろんな方から、歩いてるんだけど引っかかる、歩きにくいという状態なんですけど、1つずつお伺いしたいんですけれども、一つ一つっていうほど知らないんですけど、まず代表的な、かつらぎの道ですね。非常に多くの方が今歩くようになっていただいた。うちの近くなんで、あまり言いにくいところはありますが、非常に多くの方々をご利用されてます。ほんで、それが最初、当初造られたときっていうのは、格好よくて、石畳を造っていただいて、見栄えもよく、ほいで樹木もしっかり植えていただいておしゃれな道であった。これは、否めないというか、私も見てますので、いいところだなと思うんですけれども、なかなか地元、住民の方を含めの要望があつて、木も伐採していかなくてはいけない、植木も低くしていかないとけない、私も頼んだほうの一人なんで、植木を低くしていただいたりはしてるんですけど、今一番の問題は樹木の根が元気になる過ぎて、石畳を押し上げてしまってる。それともう一つは、自転車、あそこは広陵町とつながってはいるんですけれども、香芝の人を含めて、あそこを自転車で一気に朝の通勤で、夜はそうでもないんですけど、通勤のときに、言葉は悪いなんですけどかっ飛んで行ってるっていう状況になってるわけですよ。その辺を解消するための計画、一日も早くこれ計画を立てていただいて、安心してウォーキングをしていただく、逆に言うたら安心して通勤もしていただける、こういう状態をつくってはじめて、また元の、いい意味でのかつらぎの道に戻るんじゃないかなと思うんですけど、それについての状況というのを教えていただけますか。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） 現在かつらぎの道については、バリアフリー基本

構想の中の重点整備地区には入っていない状況でございます。ただし、かつらぎの道周辺には生活関連施設である大型商業施設、高塚地区公園、観正山近隣公園がございますことから、こういった部分も含めてネットワーク化を検討する必要があるというふうに考えており、今後バリアフリーの重点整備地区の拡大を考えているところでございます。それにより、バリアフリー化工事としてかつらぎの道の補修を今後計画していこうというふうに考えております。

○河杉博之 バリアフリー化に乗せていただくのであれば、そのままどんどん乗っけていただきたいなと思うんです。今月の12日からやったかな、五位堂駅から真美幹線で上がってくるところのコープさんと反対側、今アオキっていう薬屋さんができておりますけど、あそこまでのところをまずバリアフリー化をしていただくというのも、これは地元ですので、また聞かせていただきたいというところでもあるんですけども、そこから先のほうについて、香芝高校生と畿央大学生がいらっしゃって、通学でお使いになられて、前々からこれ地元という意味でのバリアフリーという意味では、しっかりしていただきたいということなんで、そっから延ばしていただいて、今申し上げてるかつらぎの道の整備、それともう一つ、あそこはしっかり歩道はしてますけれども、東小学校の子供たちが、あそこが通学路にもなってるのもありますので、安全確保という意味で1度見直しをしていただいて、しっかりその辺は予算を取っていただいてやっていただきたいなというふうに思います。

それを含め、新池のところも、あれ1周400メートルかな、歩くので、非常に車とか地元の方が来られて、今非常に歩いておられると。昼間は、公園の部分について子供たちが遊んでいただいているということで、本当にいい公園ができたなというのは、この頃、また改めて感じているところなんですけれども、あそこも下ががたがたになってるんですよ。そういうところっていうのは、特に市民の方々が目にして、一日も早い改善をしていくということが市民の方々が一番喜んでいただける状況なんですけれども、その辺についてしっかり、金額的に補正で出せっていうのも非常に難しいところではあるんですけども、しっかり今期やって、来期には完成できますよという保障ができるような決意はお持ちですか、要は予算取りを出すという意味では。

○都市創造部長（都市計画課長事務取扱） そうですね。高齢者の方、ジョギング、ウォーキングによって健康になれるというふうなこともありますので、皆さん、いろんな方、多くの方が使っていただいている場所になりますんで、そういった部分、もう一度再度点検した中で安全・安心に歩けるような配慮をした形にしたいというふうに考えております。

○河杉博之 先ほど上田井議員のほうでありましたように、市内道路のところでも2億2,000万円にして、ようやく市内道路の整備が進むっていうところで、また別な意味でのバリアフリーの予算をとると、2年連続で非常に大変だなと思います。多分、財政局の楠本局長はオーケー

一と言っていたかと思しますので、その辺もしっかり押さえていただいて、まさか市民のために使うお金をノーとは言わないと思しますので、その辺も含めてよろしくをお願いします。

最後に、しっかり今広陵町とか、また地元協議をしていかなくちやいけないことを、これ早めに動いていただいてやっていただきたいんですよ。予算要望をしてやろうと思ったら、地元があかんとかこの道路はあかんというふうにならないように、本末転倒にならないように動いていただきたいなというのをしっかり要望させていただきたいと思っておりますので、その辺についてはしっかりよろしくをお願いいたします。これは、要望にしておきます。

「ICTの活用・発展について」

○河杉博之　じゃあ、すいません、大きい2番で、ICT活用・発展についてということでございますけれども、これも先ほど壇上で申し上げましたように、大前提としてICTということで、1つはまず教育現場に入る前に、庁舎内のICT活用、また職員の方々のICT活用をしていただくことによって、ワンストップサービスをはじめ、いろんな形で業務改革ができていく、市民サービスの向上が行われるということは、しっかり認識をしていただいた上でこの話をやらせていただきたいと思うんですけれども、ごめんなさい、通知してないので、ここで福森部長と言うと多分議長から怒られるのでやめときますが、しっかりこの辺については、今回は学校現場のほうの話として機材は全部そろってますのでお願いはしますけれども、他人事と考えずにしっかりやっていただきたいなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

まず、GIGAスクール構想の中で教育現場の中にタブレットを子供たちに配布をしていただいて、オンライン教育をしていただいています。ただ、耳にしてるのが、なかなか保護者の方々から出てるのが、まだタブレットといっても、本来の活用をされてるわけじゃなくて、ファイルのやり取り程度ですかね、いいところっていう世界に近いところがあると。

前回お願いをして、コロナの関係で休まれてる家庭のところには学校の教室の雰囲気をとということで、それは積極的にやっていただいたと思うんですけれども、現実的な今全国の中で、オンライン、ICT活用をして授業をやっていくという意味では、家庭におろうが、教室におろうが、どういう形であろうがしっかりオンラインの中で子供たちとの、もちろん直接面談が一番いいのは事実ですけれども、できない状況の中でもしっかり学習の後れを取り戻したり、逆に言ったら、なかなか皆さん、みんなの前では言えないけれども、意見を出したりという意味で活用されてる事例がたくさん出ております。その一つ一つと比較してどうのこうのじゃないんですけれども、まず香芝として小・中学校、タブレットを使っていただいて、どういう活用のオンラインの本来の教育ができるのか、できているのか。これ保護者の方からは、特に小

学校なんですけれども、重いのを家に持って帰って、何それっていう程度やっていうところが非常に残念がられてるところから始まって、前回の教室の雰囲気もっていうところもありましたけど、今回夏休みを終えて、なかなか残念ながら発展されてないということなんです。

まず、今の現状を教えてください。

○教育部長 昨年度、まずは遠隔で健康観察を行う、また教員が自身と黒板を映して授業を配信するといった取組からスタートさせていただきました。各校で指導方法の共有が進むにつれ、教員の解説の後は課題に取り組んだり、教員に質問したり、クラスメートと意見交流する機会を持ったりしています。内容によっては、意見や取り組んだ成果をオンラインで提出することもあります。

○河杉博之 大したもんでという言い方をすると怒られますね。最初に導入したときに比べたら、少しずつ進んでいるんですけど、ただ政府としても気になってるのが、本当の意味での、なかなか100%活用っていうのは難しいと思いますけれども、先生の負担も少なくしながら、子供たちが活発的に使えるようにという形は、もともとGIGAスクール構想の中で出て話ですし、それが一番いい方法であるのは事実です。ところが、ICTについてなかなか得手不得手、これは個人のことでございますので、あんたICTが駄目だから駄目だよっていう腹では決してないんですけども、先生方もある意味で四苦八苦されてる先生も多いと聞くわけですね。

国のほうからICT支援員ということで、4校に1人かな、何かそういうのを今割り振られてはいますけれども、都心部ではとてもじゃないけど人が足りないということで、香芝が都心部なのか田舎なのかっていうのは別にして、いい意味でしっかりICTの活用をしていくためには、先生方に独自勉強をせえって言ったって、これはなかなか難しく、今国のほうで出てるのは、ICT教育を民間のそういう会社にお勤めの方々に仮といいますか、特別な教員的な資格を与えて、ICTの支援員として活用しようかっていう話もあるそうでございます。

香芝において、施策4の中でしっかりICT教育で使っていきますよって書いてあるわけですよ。これを実現するためには、何が足りなくて、何をどうしていったらいいかというのをまず出しているかっていうところについて、どういう状況になってるかというのを教えてください。

○教育部長 今現状、児童・生徒や教員のICT機器の操作補助を行う事業支援や教材の紹介や作成をサポートする教材作成支援、またアプリやハードウェアの紹介や操作方法についての研修、また機器の不具合の確認や操作マニュアル作成などのICT環境管理などの、そのあたりがしっかりしていないといけないところだと考えております。

○河杉博之 先ほど申しあげましたように、今のちょっと、ごめんなさいね、部長のほうもい

ろんな状況の中でのことなので、頭もバタバタしてると思うんですけども、ざっくり問題で言えば、先ほど私が申し上げたみたいに、教師の方が得手不得手があって、得意な先生だといろんなアプリも導入して、いろんなネットワークも組んでっていうことはできると思いますけども、これは年の方っていうと、年齢層で言ったら語弊があるのは事実ですけども、得手不得手は年齢とは関係ないのでね。ただ、どうしてもそういう中で育ってない方々が急にこういうのが来て、使いこなせと言っても難しいと。

先ほど申し上げたみたいに、国のほうはICT支援員のほうを増やしていこうとは思ってまんですけども、それを待っていると結局現場の子供たちっていうのは、どんどんどんどん当たり前のごとく、皆さんと一緒に一日一秒絶対カウントしていかれるわけですよ。そうすると、せっかくのツールを最大の利用ができないまま終わってしまうという意味で、香芝としていろんな形で、別にナンバーワンを目指せとは全然言いませんけれども、しっかり一つ一つ。

特に、これが一番言いたいんですけども、不登校の子たちが家庭内において授業ができる、受けれる、そこで発言するしないは別にしてですけども、できるということによって、一時ありましたように、しっかりあれで見ていただいたら登校したことになってもいいよという、規制下方じゃないですけども、大きく見るという意味でいくと、世界が変わってくる可能性がある。そのベースをつくってあげるという観点で見たら、しっかりこの辺については、単費でもいいからしっかり取ってやっていただくということが重要じゃないかと思うんですけど、その辺について、部長、考え方はどうですか。

○教育部長 確かにアプリの設定や操作が複雑なものもございまして、教員、児童・生徒、両方に対して支援が必要な場合があると考えます。

本市では、令和2年12月からICT支援員を配置して、各校週1回以上訪問して教員の支援を行っております。日常的に各校で支援を行う3名と業務統括責任者計4名の体制とさせていただきます。

○河杉博之 ごめんなさい。私が申し上げたいのは、今の体制では結局足りないよと。変な話ですけど、長期にわたらなくても結構なんですけれども、短期に横にいてしっかり指導ができる、その人数が4校に1人じゃ全然足りないですよ。特別に短期間でもいいですから、民間さんとの提携をしていただいて、これはごめんなさい、法律的な問題があって、乗り越えていけない状態があるとは思いますが、そこは丁寧にしっかりやっつけていかなきゃ、学校のことなんでやっつけていかなきゃいけないと思うんですけども、しっかりその辺ができるような形っていうのを教育委員会から行かないと、学校側はあっぷあっぷしても、そうなのしか言いようがないでしょ。そうじゃなくて、手を差し伸べて、それが先生のためでもあるんですけど、実際は子供のためですから、そこがしっかりできるような形っていうのを取るということ

が大切なんです。それをどう考えてるかっていうことなんです。

現状の話は、足りないのは分かってるんですよ、どう転んだって。これで足りてたら、申し訳ないけど、逆の言い方をしますと香芝に来ていただける先生、ICTに対してすごい優秀な先生ばかりになってしまう、そんな状態なんです。だから、優秀な方がいらっしゃるの事実ですよ。でも、実際そのクラスの担任で、中学になると担当教科で、そこに行き着かない先生、別に先生を悪く言う意味じゃないですよ、どうしても得手不得手がありますので、そこをそばにおいて、横についていただかなくちゃいけない、その体制を取れますかって聞いてるんで、こうしてますっていう報告は結構です。それをする気があるかないかの問題なんですけど、どうですか。

○教育部長 先ほど申しましたICT支援員4名では足りないとおっしゃっていただいていたと思います。

今後も、要はICT活用、これは新しい形も出てきますんで、教員が機器の操作に慣れれば不必要になるとか、そういったものでもございませんので、今後もしっかりとICT支援員による教員支援、こちらのほうを継続していきたいと考えております。

○河杉博之 要は、増員はしていただいとつか、100人も200人も言ってるわけじゃなくて、集中的に4校に1人じゃなくて、せめて1校に1人ぐらいのペースぐらいで、それは小・中学校を合わせると全部で14校ありますので、14人なのかっていう話にはなるんですけども、逆に言ったら、先生方が子供に寄り添うためには、その先生方に寄り添うICT支援員が、あくまでICTに関してですよ、いないとなかなか前を向いて進まないということを理解していただいて、学校の現状、先生方のICTに対する状況の把握っていうのをしっかりしていただいて、上っ面のできますできますじゃなくて、本当に子供たちのためにできてるのか、できるような状況が、環境がそろってるのかっていうのをしっかり見た上でやっていただきたいと思うんです。そこをしない限り、数合わせをしていただいても意味がないので、そうすることによって保護者の方も安心して、こんな大きいパソコン持って帰っても、家では何もできないわじゃなくてということになりますので、よろしくお願いします。

ほんで、財政局になりますけども、しっかり財務のほうで、なかなか予算取りでこの厳しい中の中ですけど、先ほどの高齢者に対するひきこもりを防止するためにもしっかり、道路という意味じゃなくて、歩けるまちづくりという意味での予算、そして今のICT支援員を含めて、ICTの教育委員会の予算プラスアルファが来年の要望として出てくると思うんですけど、その辺にしっかり穴を掘っていただいて、予算をつけていただけるようなことはしていただけるかどうか。ここにこんだけの金がありますっていう話は、残念ながら多分ないと思いますので、どうですかね、財務局長。

○財務局長（財政課長事務取扱） 今回お聞かせいただきましたご意見を踏まえまして、予算に関しましては各部局から要求がございましたら、その事業、詳細を確認した上で財源の活用を含めまして、その事業実施のための、実現できるにはどうすればよいかと、その辺の方策も含めまして、担当部局も交えた中で考察のほうは進めたいと思います。

○河杉博之 ありがとうございます。

やる気があれば財政局のほうは穴を開けていただいて予算を取るということでございますので、しっかり。ただ、そのためにほかの市民サービスが下がってしまっても意味がないので、しっかりその辺のバランスというのは必要だと思いますので、よろしくお願いします。

最後に、話がICTのほうの関連ではあるんですけども、しっかり教育委員会で調べてっというか、見ていただきたいと思うのは、熊本市の帯山中学校というところが全校生徒がタブレットを持って、帯中カタリバというアプリを、多分これNPO法人かどっかの会社につくっていただいたんだと思うんですけど、教頭先生で、田中先生っていう、これオープンになってるから名前を言えるんですけど、子供たちのSNSといいますか、タブレット間での相談をやっていて、それも相談をするのも子供ですけども、それを返すのも子供という、生徒という状況で、非常に帯中の中でいい状況になってるということで、使ってる方も喜んでますし、子供たちの目線で、子供たちの悩みに答えていますので。ただ、教頭先生が検閲はしてるんですね、個人が特定されたり、過激な言葉になってしまったら問題があるので。この辺については、しっかりそういうタブレットという状況がありますので、帯中のほうの検証といいますか、しっかり情報を取っていただいて、もちろんそこがやってるから100%絶対そのままコピーしたらいいもんだとは私も言いません。その地域地域の問題もありますし、実際の話、この話をするとならば教頭先生がよっぽどこれにたけた人かなという思いもありますので。ただ、これいい成果が出てるようでございますので、1回ちゃんと見ていただいた上で、帯中カタリバということで、熊本市の帯山中学校らしいんで、よろしくお願いします。

それともう一つ、これは教育長に笑われましたけど、最後に一つだけ、これも申し上げたいと思うのが今日子供たちの成長のこと、子育てのことでいろいろありましたけども、大人が子供に対して意識をしていかないといけないということで、奈良県で子供が危ないときに言う「いかのおすし」っていうのが標語として出ましたけど、あいうえお作文じゃないですけど、「おすし最高かよ」というのが今どうもネットではやってて、はやってっという言い方はあれですね、子供たちに接する態度っていうことでございます。ネットで今検索していただいたらどうということか分かりますけど、「おすし最高かよ」ということで、しっかり皆さんも子供たちに接するときについていうので、私も含めてですけど、その辺を改めて認識した上で、香芝市の発展、市民サービスの向上を目指していただければと思いますので、よろしくお願

を申し上げまして、私の一般質問を終わらせていただきたいと思います。大変にありがとうございました。